



時代のアンテナはいつも僕たちに向けられている。

YAMAHA Electric Guitar & Bass

Ave you ready

この音だ。

一方に、エレクトリックギターに盛りこまれたテクノロジーを使いこなして独自のサウンドを確立することで個性を表現するサウンド派のギタリストがいる。そして彼らは、強力無比なアンプやエフェクターが出現すればするほど、あらためてギターのもって生まれたサウンドを重視するという。エレクトリックギターは、音源となるボディがもつ固有の音をピックアップで電氣的にコントロールしながら再現する楽器だ。そのためにヤマハはボディとピックアップを“一体の関係”として追求。シリーズごとに、場合によっては同一シリーズでも品番ごとに、独自のボディとピックアップを与えている。いちど手にしたギターがその後の音楽性に決定的な影響をおよぼしてしまうだけに、この音だ！とトップギタリストの指名が続くヤマハのオリジナルなサウンドを実感して欲しい。

弾き応えと弾きやすさ。

一方には、テクニク的にオールマイティであり、その曲にシチュエーションを合わせてあらゆるテクニクを駆使し、その持てるテクニクを組み合わせることで個性を表現するテクニク派のギタリストがいる。センシティブな感性をも兼ねそなえた第一級のテクニク派のギタリストは、そして何よりもベーシックなレベルから追求された弾き応えと弾きやすさ、シンプルな操作系を好むという。1フレットのフィーリングが最終フレットまでリニアにつながるよう入念に削り出されたネック。ハイポジションの演奏性と機体バランスを考慮しながらサウンドイメージも表現して、それぞれに個性的なカットウェイ。トーンノブに組み込んだシンプルでバイサウンドSWや信頼性の高いレモユニット。さらに新登場のショートスケールBBなど、ヤマハもまた天性の資質も持てる技術駆使してリアルタイムの演奏性を高めている。

スーパー・クオリティ。

しかし、サウンド派、テクニク派それぞれを決定づけるさまざまなファクターを、自由に選びだし、複合させて築き上げているのが真の実力派ギタリストだといえないだろうか。もちろん、深く楽しむためには鋭い感性と豊かなキャリアが必要だ。ヤマハのエレクトリックギターは原材から出荷されるまでの間に6つもの乾燥工程を経る。1年以上にわたる自然乾燥から塗装工程の間に行われるシーリングまで、時間の差はあってもそれぞれが重要な意味をもち、ボディ材の含水率は最終的にはグラブドピアと同じ基準の8%まできっちり落とされる。すべてに手ぬきのない、エレクトリックギターづくりのオーソドックスな手法から生まれたヤマハたち。その塗装技術駆使した新しいカラー展開にも注目して頂きたい。真の実力派をめざす楽しみ方のうまいギタリストたちよ。Are you ready?